

日本聖公会

大阪教区報



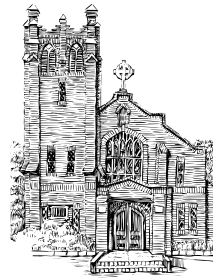
大阪聖ヨハネ教会



堺聖テモテ教会



庄内伝道所



主教座聖堂 川口基督教会

日本聖公会
大阪教区総務局

〒545-0053

大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8

TEL 06-6621-2179

FAX 06-6621-3097

osakakoho2022@gmail.com

発行責任者

総務局長 司祭 柳 時京

+++++ 第520号 2024年8月20日発行 +++++

聴くことは^{かわ}拘り続けること

司祭 フランチェスコ 成岡 宏晃

2022年から開かれてい
る「 Pneumaの集い」では、
これまで「老い」や「ゆるし」
について思いを巡らせつつ
「信仰的な交わり」のひとつ
を過ごしています。参加者に
とつての大きな実りは「普段、
教会でなかなか話すことがな
い神さまの話や自分の信仰の
話を語り合い、聴き合う」と
いう時間であったようです。

リシア語で「息」「風」「聖霊」
を意味する言葉です。いづれ
も、それ自体を視覚的に確認
することはできません。あら
ゆる情報の70〜80パーセント
を視覚から得ていると言われ

いものは、ない」と結論づけ
られるケースが多いのかもしれ
ません。これは「神の存在
を信じること」についても、
同様のことが言えるかもしれ
ません。
2023年に開催された宣
教協議会からの「呼びかけ」
として「ここからまた歩き始
めよう」とのちに仕え とな
りびととなるために」とい
うメッセージが小さなカード
で分かち合われています。そ

係を作り、世界の課題から目
を背けずに向き合う」ことで
す。
わたしたちの使命は、先ほ
どの「信仰心」や「聖書解釈」
と同様、「唯一の正しい答え」
を導き出すことによって解決
へと至るものではありません。
大切なものは、み言葉に、
他者に、世界中の課題に、拘
り続けることです。多彩な考
え方や発想が混在する中で、
「自分の目的が遂げられな
い」、「自分の思い通りにいか
ない」というだけの理由で、
拘ることを諦めてしまうこと
があるとすれば、それはもは
や「キリストの枝」である教
会共同体ではなくなっている
ような気がします。そうなら
ないために、絶えず神の声に、
人々の声に、世界の声に「耳
を傾け」つつ、問い続け、歩
み続けてまいりましょう。



(大阪城南キリスト教会牧師、
プール学院中学校・高等学校
チャプレン)

聖書のみ言葉や信仰生活に対
して懐疑的になっていくよう
な気がします。これも大切な
ことです。
ちなみに「Pneuma」とは、
新約聖書の原語である古典キ

ている人間にとっては「聖霊」
を感じるということは大変困
難なことでしょう。とりわけ
「唯一の正しい答え」を導き
出すことが「義」とされてい
る昨今の世の中では「見えな

の具体的なアクションとして
「神の声に、人々の声に、世
界の声に耳を傾ける」ことが
示されています。これは、「聖
書を読み、教会に連なる一人
ひとり心から安心できる関



管区総会報告

聖職代議員 司祭 ショイ 千松 謙美

5月28日(火)から30日(木)まで、日本聖公会第68(定期)総会が東京教区聖アンデレ教会礼拝堂およびホールを会場として開かれた。11教区より主教議員各1人で計9人(注意：北関東教区は伝道教区となり主教議員は無し、大阪教区は欠席)、聖職代議員各2人・信徒代議員各2人で計44人、管区諸委員会および関係者など、合計約80人の規模で、18件の報告、35件の議案が話し合われた。

大阪教区からは、聖職代議員として千松清美司祭と古澤秀利司祭、信徒代議員として太田幸彦氏、寒河江研司氏が出席した。磯晴久主教は膝の術後療養のため欠席となった。

報告や議案のすべてをここに記載することは不可能なため、大切な情報や特筆すべき内容を短く報告したいと思う。

・開会聖餐式では、マイノリティ宣教センターの働きおよび能登半島地震被災支援のためへの祈り、献金76,105円をささげた。マイノリティ宣教センターについては、開

会礼拝後の人権の学びの時間枠で、センター共同主事の渡邊さゆりさんを招き、その働きの紹介、現在起きている人権の問題(ヘイトスピーチ、ヘイトクライム、日本の入管法の問題、アトウトウ(一緒に)ミヤンマー)の学びをした。現代社会における大きな課題を出席者に投げかけられた。

・開会にあたり議長挨拶では、「セーフチャーチ」、「2023宣教協議会からの呼び掛け(3つの項目)」、「ランベスコール」が各教区・教会で分かち合われ、理解と拡大がなされることを望まれた。また2023年ブラジル聖公会日本人宣教100周年記念礼拝に出席され、互いの宣教活動の協力を確認したと報告された。そして今年10月21日〜23日に済州島で開催される日韓両聖公会宣教協働40周年記念大会には各教区から1人の参加が必須であることが言及された。最後に今会期で首座主教の任期が終了するにあたり、感謝の意が述べられた。

・2023宣教協議会実行委員会は、今会期で解散となり、2023宣教協議会からの呼びかけのカード版を配布する

予定であり、教区・教会の現場で活かせるように期待すると述べ、協議会で語られたことは一つの「通過点」としてここからが始まりだという意識をもって、ぶどうの木であるイエスにつながるすべての方々が、ともに枝として豊かな実を結ばせる歩みをしていきたいと述べられた。次回の宣教協議会は未定で、実行委員会は最後に方向づけだけを協議し解散となる。

・祈祷書改正委員会は、2016年第62(定期)総会決議で設置され、2020年第65(定期)総会で継続決議された委員会、現在13人で活動している。2024年4月に『改正祈祷書詩篇(試用第1版)』が発行され配布されている。本総会で『改正祈祷書(試用第1版)』が議案として提出される予定だったが、コロナ禍での作業中断、委員会の力量の限界などがあり、スケジュールが非常に厳しい状況となり作業の遅延により、議案提出期限に間に合わなかった旨のお詫びがあった。これまでも様々な面で詳細に改正が行われており、委員会活動報告については、『祈祷

書改正ニュース』を年3回程度発行している。またWebサイト(<https://johann18942.wixsite.com/nsk-prayerbook>)で情報提供をしている。祈祷書の電子化についても検査委員会を設けて検討されている。本会議で出席代議員にのみ『改正祈祷書 改正作業の現状(参考資料)』が配布され、経過報告があった。

・宣教協働区報告では、北関東教区・東京教区宣教協働特別委員会より「新教区設立への道」が提示され、2025年11月両教区(定期)教区会にて、新教区設立の承認に関する議案審議がなされること示された。両教区は2021年共同声明を発表し、宣教協働・広報・組織・財政それぞれの小委員会にて様々なことが検討、協議、実施されたことが報告された。北海道教区・東北教区は、2023年から具体的な協働が始まり、宣教協働タスクチーム「チーム北国」より協働内容の報告があった。そのなかで宣教協働・教区再編に向けて、ミッション・ステートメント2023が提示された。2028年の両教区合併に向けた教区

再編の具体的な成果を得るため、宣教協働・広報・組織・財政のセクションの活動を進めていくことが述べられた。

・日本聖公会年金規約の一部改正が承認された。これは年金加入者(教役者)減少のため各教区事務所または管区事務所職員もこの年金制度の対象者とし、年金制度を今後も保持するための改正である。

・大阪教区からの議案として、宗教法人「日本聖公会大阪教区」規則変更承認の件と宗教法人「聖贖主教会」を宗教法人「日本聖公会大阪教区」に合併することを承認する件の2件が審議、可決した。

・1件の議案を除き、すべての議案は可決した。否決した議案は、「宣教協働区検討委員会設置の件」で、宣教協働区の区分けの再検討を願うものだった。議場で議案内容の後押しする複数の意見が出たが、賛成数が過半数に及ばなかった。提出者が横浜教区司祭だったため、中日本宣教協働区からこれから横浜教区の思いを分かち合い、どうしていくか中日本宣教協働区でまづ話し合い、考えたいという意見も出された。

・九州教区ルカ武藤謙一主教の定年退職にともない、首座主教の選挙が行われ、沖縄教区ダビデ上原榮正主教が選ばれ、閉会の聖餐式後に首座主教就任式が行われた。

・常議員選挙が行われ、笹森田鶴主教、高橋宏幸主教、土井宏純司祭、大岡左代子司祭、上田亜樹子司祭、赤坂有司氏、池住圭氏、村井恵子氏が選ばれた。

・管区事務所総主事には、主教会より次期定期総会まで矢萩新一司祭が指名された。

以上

(聖職代議員、石橋聖トマス 教会牧師、東豊中聖ミカエル 教会・庄内伝道所管理牧師)

教会遠足

川口基督教会 グレース 内海 紗英子

7月28日(日)、石橋聖トマス教会にて5回目となる教会遠足が開催されました。

子ども12人、スタッフ保護者を含めた大人11人の参加者が猛暑のなか集められました。

今回は過去の教会遠足経験者が多く、またトマス教会の方々もスムーズに案内してくださり、子どもたちは緊張する様子もなく礼拝を献げることができました。

昼食後は、簡単な分かち合いの場を持ちました。『なま

大阪教区 教区礼拝

日時.. 9月23日(月・休) 13時

場所.. プール学院中学校・高等学校

後半プログラム15時30分

プネウマの集い(カフェテリア)

キッズ広場(カフェテリア前)

若者の集い(学校屋上)

えのないねこ」という絵本を元に「みんなは何て呼ばれている?」と質問し、お互いの名前を呼び合いました。絵本の内容を踏まえ、「どんなしんどい時・困った時でも神さまはみんなの名前をちゃんと知っていて、呼んでくれるよ」と締めくくられた今回の分かち合いが、子どもたちの心に響いていることを祈ります。

その後は、20人近いトマス教会信徒の方々が準備してくださったいくつものコーナーで楽しく遊びました。

夏らしいフルーツポンチを食べながら、スマートボールや様々なクラフトを夢中にこなす子どもたちにとって、素敵な夏の思い出になったように思います。

キッズフェスティバルで出会った子ども達が定期的に顔を合わせて、心を通わせ合うことの意味を感じた1日となりました。



第133臨時教区会報告

司祭 ヨハネ 古澤 秀利

去る7月21日(日)川口基督教会にて第133(臨時)教区会が開催されました。教役者議員13名出席、信徒代議員33名出席。常置委員会より「宗教法入日本聖公会大阪教区が『伝道教区』となることの承認を求める件」が提出され、聖職者議員と信徒代議員に分けて投票を行いました。どちら

も賛成票が過半数にいたらず、否決されました。そのため、大阪教区は11月4日に主教選挙を行います。大阪教区の歩みを覚えてお祈りください。(大阪聖愛教会牧師・書記長)

大阪教区 婦人会 秋の修養会

「地域生活の延長線上にある入所施設 ~地域生活支援センター光」

講師 種本浩司氏 (社会福祉法人聖ヨハネ学園 地域生活支援センター光・施設長)

日時: 2024年10月18日(金) 13時

場所: 高槻聖マリヤ教会

大阪聖アンデレ教会 チャペルコンサートVol.1

コードリベット・コールによる教会音楽演奏会

平和への祈りをこめて — この美しい大地は —

2024年 9月8日(日) 14:00開演 入場無料

(13:30 開場 16:00 終演予定)

会場 大阪聖アンデレ教会礼拝堂

(桃山学院大学あべのBDL 聖テモテ館1F)

新連載 司祭の本棚から
新連載についてと

夏の本のご紹介

司祭 金山 将司

今月号より、新連載として、「司祭の本棚から」をはじめることになりました。これはリクエストいただいた企画で、各司祭が沢山お持ちの本から一押しを紹介していただくと言うものです。キリスト教雑誌、新聞の廃刊が増えていく時代だからこそ、素敵な読み物をご紹介していただくと思っております。

さて、私、金山が今回ご紹介したい本は、『ボク、ただいまレインタル中』という本です。これは長崎源之助という児童文学家の本で、子供むけの挿絵の入った本です。神学書じゃないのかとお叱りを受けそうですが、この本は今からの季節、特に8月こそ大人も子供も読むべき本だと思っています。

一也少年が、夢之孫一郎という怪しげなおじさんにそお客さんの孫として振る舞う商売の孫役として雇われるところから始まります。その仕事を通じて、彼は様々な戦争

の傷跡に出会います。戦時中、日本に来て、差別されながら、がむしやらに働き、資産家になったおじいさん、在米日本人として、戦時中ユタ州ト

パーズの強制収容所で、自分の息子に、綺麗な空気も、水も満足に与えられず、死を看取るしかなかったおばあさん。子供たちに国のために死ぬ、と教えなければならず、自身の子供も戦争から返ってくる

ことがなかった先生。生まれてくるのがなかった孫たち、会えない孫を求めた人々に彼は出会って行くのです。戦争のことを学ぶ、平和を「考える」時代になりましたが、私はこの本を読めば、そういう難しいことではなく誠に平和を感じることができるとは思いません。

キリスト者にとって8月は戦争と平和を思う季節です。ぜひ、この本を読んでいただき平和と戦争を感じてもらいたと思います
学校よりずっと勉強になるぜ。ほんとだぜ。この本を読めば、きつとなつとくすると思ふよ。
(作者からきみたちへ より)

新連載 「三」の「体」の「彩る祈り」改正祈禱書への招き

はじめに、くマイ祈禱書もっていますか？

今号より、祈禱書改正委員である成岡宏晃司祭に、改正祈禱書など、新たな礼拝用書に關して解説いただくと、新連載を開始いたしました。以下本文

「成岡君、聖公会の教会で洗礼を受けたんだ。じゃあ、祈禱書とか持ち歩いてたりするの？」

教から「きみは、自分の礼拝用書も持っていないのか。教役者というのは『礼拝のプロ』なんだから、礼拝用書ぐらい自分のものを持参して来なさい」と言われ、「マイ祈禱書」をはじめ「マイ礼拝用書」を持参して礼拝に参加することの意味を考えるようになりました。

学生時代に他教派の友人にかけられたこの言葉が妙に悔しくて、受洗後1年間ほどバイトやカラオケに行くときも意地になって「マイ祈禱書」を携帯していた時期がありました。そのときは、祈禱書が自分自身の教会生活においてどのような意味があるのかきちんと理解していたわけではなく、「クリスチャン」としての特別感を味わいたかっただけなのかもしれません。この数年後、図らずも川口基督教会で神学生として夏期実習を過ごしていた時に手ぶらで主日礼拝に参加して教会の備品を拝借していた私は大西主

る共同体性の一端を振り返りながら「礼拝のプロ」とは、いったい誰を指すのかと考えるとき、それは教役者だけに限らず、神さまへ祈りをささげるために礼拝に集められた一人ひとりのことではないかと感じるのです。なぜなら、礼拝とはそこに参加する一人ひとりが神さまにささげる一つひとつの祈りの言葉によって創り上げられていくものだからです。

現在、祈禱書改正という日本聖公会全体の大きな働きが進められており、詩編の試用版が発刊されています。先の管区総会でもいくつかの重要な資料が配布されましたが、まだまだ祈禱書改正の働きが広く認知されるには至っていません。本コーナーを通して一人でも多くの方が「改正祈禱書」に心を寄せていただけますことを心から願っています。

「自国語で聖書を読むことができる」、「自国語で礼拝を捧げることができる」という点にあるからです。さらに、信徒と聖職が交互に祈りの言葉を唱える聖公会の祈禱文は、信徒と聖職がともに礼拝を創り上げていくという聖公会の共同体性を具現化したものでもあります。

わたしたちが大切にしてい

(日本聖公会祈禱書改正委員会委員、大阪城南キリスト教会牧師、プール学院中学校・高等学校チャプレン)



日韓交流生野センターと韓国からのお支えをおぼえて
司祭 柳時京

大阪教区川口基督教会と宣教協同関係を結んでいる大韓聖公会ソウル教区の南楊州聖生院教会（牧師管轄司祭イ・ジェボク神父）より、聖公会生野センターに貴重な献金がさげられた。

川口基督教会の訪問団が6月15日（土）から17日（月）まで韓国を訪ね、合同聖餐式を行い、交流会を開いた。「出会い、交際、祈りの旅」をテーマに訪韓した13人の訪問団は、聖歌修道会、ソウル司教座教会訪問に続き、聖生院教会で日曜礼拝を行い、2日目に江村祈禱院に泊まり、韓国の教友たちと共に交際の時間を過ごした。

特に、今回の訪問では、聖生院教会が今年5月に開催したバザー会の収益金と献金2,862,000ウォン（約31万円）を日本聖公会生野センターに後援金として寄付された。聖公会生野センターは大阪に位置する宣教団体で、在日韓国人密集居住地域で地域住民のための生活支援事業を展開している。1992年に設立された同センターは、日本人、在日韓国人、そして

様々な文化的背景を持つ人々が一緒に働き、すべての人の尊厳を尊重する社会を構築することを目標に活動している。大阪教区は独自の後援会を組織して活動を支えている。両教会は2022年11月、3年間宣教協同関係調印式を行い、「主の中で共に祈り、学び、新しい未来を模索すること」を目標に、様々な宣教協同活動を行っている。昨年は川口基督教会でバザーを通じて集めた収益金26万4千円を聖生院教会の移住青少年同行プログラム「翼」のために奉獻している。日本側委員長は信徒の辻乃さんがつとめている。辻さんは今年7月から生野センターの新理事に加わる。

今回の交流会は両教会の交友たちが互いの文化を理解し、霊的な成長を図る貴重な時間となった。今後も両教会は持続的な交流を通じて宣教協同と社会的連帯を強化する予定だ。



【常置委員】報告 6/5 第10回（臨時）

● 教役者会で改正祈禱書の勉強会のため、市原信太郎司祭を講師とするため、特別財産教役者研修資金より費用を支出する。
● 日本聖公会第68定期総会の報告を受けた。
● 5月26日（日）川口基督教会にて行われたこれからの教区を考える懇談会の報告を受けた。また6月16日（日）、7月15日（月・休）の同懇談会について打ち合わせをした。
● 7月21日（日）第133臨時教区会の議案内容について確認した。
● 北関東教区主教補佐の矢萩栄司司祭への伝道教区についての質問内容を検討した。

6/19 第11回（定例）

I. 主教報告及び諸報告
● 人事について報告があった。
● 9月・10月の主教の動向について報告があった。
● 教区業務において税理士、社労士、行政書士とのそれぞれの契約継続について提示があり、承認した。
● 3月臨時教区会の承認事項である教会献金から一般会計への補填処理を行ったことが報告された。
● 事業委員会よりパウロ・プロジェクト、教区館および主教館と富田林聖アグネス教会の土地利用検討について報告があった。
● 大韓聖公会ソウル教区主教按手式、台湾聖公会宣教70周年記念式典の招待状が主教あてに届いた。

II. 協議事項と主教諮問

● 教区墓地埋葬申請3名を承認した。
● 6/26 第12回（臨時）
● 中日本宣教協働委員会において、伝道教区になるにあたっての質疑応答の報告を受けた。
● 7月15日（月・休）「大阪教区の今後を考える懇談会」の役割担当とプログラムを審議し決定した。

7/18 第13回（定例）

I. 主教報告及び諸報告
● 人事について報告があった。
● 鍋島守一司祭の妻、鍋島久美子氏の逝去、葬儀の報告を受けた。
● 2023 宣教協議会からの呼びかけ、大阪教区のビジョン2024を朗読し内容を再確認した。
● パウロ・プロジェクトは桃山学院との協議の結果、教会建物、牧師館の今後について大阪聖パウロ教会が責任をもって対応することが報告された。
● 大韓聖公会ソウル教区主教按手式は、磯主教と柳司祭が出席する。
● 台湾聖公会宣教70周年式典は、千松司祭を団長とし訪問団を結成し出席する。ツアー詳細の報告を受けた。

州島）に、教区代表として古澤恵依子氏が出席することになった。
● 7月21日（日）第133臨時教区会の表決方法について審議し、聖職議員と信徒代議員それぞれの過半数とすると決めた。
● 大宗連（大阪宗教者連絡会議）より議長への任の要請があり審議の結果、事情を説明し断ることとした。
● 大阪聖ヨハネ教会の土地建物の所有権を大阪教区に移転することを承認した。

7/25 第12回（臨時）

● 7月21日（日）第133臨時教区会の決議を受けて振り返りを行った。
● 主教選挙について審議し、左記のとおり決定した。
① 第134臨時教区会を開催し、主教選挙を行う。
② 日程：会場：11月4日（月・休）（主教座聖堂・川口基督教会）
③ 「日本聖公会教区主教選挙候補者推薦管理委員会」を設置し、聖職者および信徒より3名を磯主教が選出し、常置委員会で承認し指名する。
④ 主教選挙と教区の将来を考慮するための「黙想会」・「懇談会」の開催、および「教区の今後のビジョン」の提示をビジョン・チームに委嘱することとした。

【局長】報告 7/4 第6回

● 京都教区から夏期のキャンプの案内があった。
● 2025年の聖ガブリエル教会宣教100年、阪神淡路大地震

大阪教区関係教役者レクイエム

毎月第2水曜日 川口基督教会

9月11日(水) 10:30~

説教者：内田 望 司祭

- 4日 執事 ラザロ 布施 好古 (1938)
- 6日 主教 ヨハネ 名出 保太郎 (1945)
- 9日 司祭 ジェームズ・J・チャプマン (1946英)
- 11日 司祭 チャールズ・ハムデン・バジル・ウッド (1941英)
- 12日 主教 ヘンリー・エヴィントン (1912英)
- 14日 宣教師 ドロシー・サローム・ワインウイelson (1963英)
- 23日 主教 ペテロ 柳原 貞次郎 (1973)
- 司祭 ドナルド・F・ウインズロー (2000米)
- 25日 司祭 田中 正之助 (1927)
- 27日 宣教師 エルシー・メイ・ベイカー (1977英)



10月9日(水) 10:30~

説教者：ヒューム ユーワン 司祭

- 2日 司祭 ジョージ・チャプマン (1940英)
- 5日 司祭 サムエル 福田 光宏 (2013)
- 9日 主教 ヨハネ 山田 襄 (1993)
- 12日 司祭 マルコ 岡 精三 (1997)
- 16日 主教 ペテロ 松井 米太郎 (1946)
- 主教 サムエル・ヘーズレット (1947英)
- 18日 司祭 ステパノ 木庭 孫彦 (1928)
- 20日 司祭 チャールズ・セオドア・ワレン (1949英)
- 23日 司祭 ステパノ 遠藤 敏雄 (1971)
- 24日 司祭 深田 直太郎 (1971)
- 司祭 ペテロ 横田 久明 (1995)
- 25日 宣教師 イブリン・アリス・レーン (1971英)
- 29日 司祭 セオドシアス・ステファンズ・ティング (1927米)

局長会議報告(続き)

30年、終戦80年の折りや記念の検討を行う。

【財政局】

* 牧会補助金申請が6教会からあり、予算内に収まる見込み。

【総務局】

* 大阪教区の案内用リーフレット作成を検討する。

* 9/26ソウル教区主教按手式に磯主教、柳司祭が出席予定。

【協議事項】

* 教区の今後を話し合う懇談会(7/15)、臨時教区会(7/21)、教区礼拝(9/23)について協議した。

【宣教局】

* 2025年の聖ガブリエル教会宣教100年、阪神淡路大地震

7/23 第7回

30年、終戦80年、日韓40年についての検討を引き続き行う。

* 7/28ともに学ぶシリーズI「チャントについて」を川口基督教会で開催予定。

【財政局】

* 教区館2階と主教邸のエアコンが相次いで故障し、急遽7/21入替え工事を行った。

【総務局】

* 教区事務所の夏期休暇を8/13~16とする。

* 教区礼拝のチラシを印刷手配中。

【協議事項】

* 7/21の教区会の振返りを行った。
* 11月の主教選挙について協議した。

洗礼

堺聖テモテ教会 (3月31日)

エリフ 清家 球平

東豊中聖ミカエル教会 (4月14日)

パウロ 天野 文雄

初 陪 餐

東豊中聖ミカエル教会 (4月14日)

パウロ 天野 文雄

堅 信

堺聖テモテ教会 (4月7日)

エリフ 清家 球平

東豊中聖ミカエル教会 (6月9日)

パウロ 天野 文雄

逝 去 者

堺聖テモテ教会

ヨハネ 林 茂

守口聖オーガスチン教会 (3月29日・74歳)

ヘレナ 伊藤 和代

高槻聖マリヤ教会 (4月13日・76歳)

中島 美和子

(6月6日・84歳)

ルツ 磯野 千枝子

(5月12日・99歳)

大田 美雪 (5月25日・80歳)

大阪聖パウロ教会

マーガレット 池田 悦子 (6月14日・85歳)

西宮聖ペテロ教会

ヨハネ 久保 孝彦 (6月11日・76歳)

石橋聖トマス教会

モニカ 橋井 婦美子 (6月21日・100歳)

大阪聖アンデレ教会

マルコ 茶本 博史 (6月28日・79歳)

大阪聖ヨハネ教会

ハンナ 鍋島 久美子 (6月29日・83歳)

東豊中聖ミカエル教会

マリヤ 柏尾 法子 (7月22日・84歳)

魂の平安をお祈りします

お詫びと訂正

○518号8頁

大阪教区関係教役者レクイエム逝去記念一覧30日パウロ水谷博彦司祭記載漏れ

お詫びして、訂正いたします。

